

京都西山・大枝のアサギマダラ 2022・①

北上期のアサギマダラ第一号が飛来

2022.05.08・14時28分



① 京都原種・フジバカマ (葉も全体も大柄)

突然シーズンインしました。北上期に内陸部の京都に飛来して目撃されたのは、アサギマダラの調査が始まって以来初めての記録です。この日、長野県小谷村で20年間生活したことが有るといふ板井幸子さんが初めてこのフジバカマ花壇に来てくださいましたが、アサギマダラが歓迎のご挨拶に現れたみたいで、隣接する『九社神社』にお詣りに行った二人(松永かすみさん)が戻ってくるのを待たないで、姿を消してしまいました。写真を撮って待っていればフジバカマに止まって口吻を伸ばしていたかも知れないのに、捕虫網を振って、逃げられてしまったのです。残念でした。

アサギマダラは、たまたまこのフジバカマ花壇を通りかかったわけではありません。フジバカマ花壇のフジバカマなどの香りに誘引されて日向に出てきたのです。気象庁によると、この日の最高気温は22.3℃でしたが、アサギマダラの生活適温(体温のこと)は30℃前後で、ずっと日向にいますと1分間で気温よりも10℃も上昇し、5分後には15℃上昇して安定することが分かっています。アサギマダラは森に入ったり、日向を翔んだりしながら体温を生活適温に保って生活していますが、もう一つの体温調節方法は、飛翔高度を上げると気温が低くなり、生活しやすくなります。その意味で、アサギマダラの移動高度は移動の季節には400mぐらいではないかと私は

考えています。高度を上げれば涼しい気温帯に入り、下げれば暖かい気温の環境を旅することが出来るのです。(高度差100mごとに0.6℃上下するとされています。)



② フジバカマ花壇から東を見下ろした当日の景観と気象

1.アサギマダラはどうやってフジバカマ花壇を見つけたか。

当日は上の②の写真のように晴天で風も穏やかな日和でしたが、吹き流しは斜面上昇風が吹いているのを示しています。正面が東で、上空は北風が吹いて飛行機雲を靡かせているのが分かるでしょう。飛来したアサギマダラは、フジバカマ花壇の香りに誘引されて来たものと思われませんが、晴天の日にはまず地面(比熱が小さい)が太陽光で温められ、地面に接している空気の温度が上がります。空気は温められると軽くなり、上昇しようとするのですが、京都西山の稜線に至るまでのすべての斜面の空気全体が同じように上昇しようとするので、結果的にはまるで絨毯のように日向の地表の空気が、稜線に向かって斜面全体が山腹を這い上って(斜面上昇風と呼ぶ)フジバカマ花壇の香りを、森の中の生活適温帯を飛翔するアサギマダラに届けるのです。アサギマダラは、分散しないで斜面上昇風の中の紐みみたいに連なる香りを辿ってフジバカマ花壇にたどり着くわけですが、平地の花壇ではこんなことは起こりません。この『風とアサギマダラの生活・検証実験施設』は、目には見えない風を感じ、実際にアサギマダラが多数飛来するのを観察するために造られました。

2.京都西山のフジバカマ花壇の概要

アサギマダラの初飛来が有ったので、シーズンインしてしまいましたが、新しい仲間や後援者の皆さんに、今年の施設の概要をお知らせしなければな

りません。フジバカマ花壇の栽培面積は、およそ2倍になりました。フジバカマの増殖に比例してアサギマダラの飛来も増えるでしょうか。興味が尽きないところです。



③ 山口県原種・フジバカマ (小柄で花期も遅い)



④ 園芸種・コバノフジバカマ (花期が遅く、繁殖力旺盛)



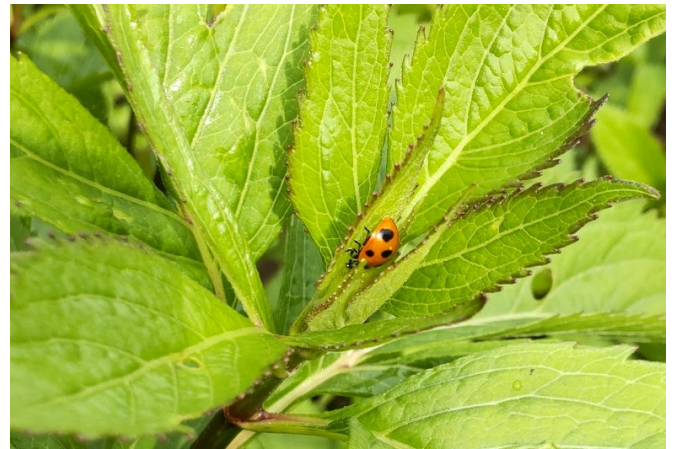
⑤ 山口県自生種・ヤマヒヨドリ (花期は一番遅い)

2021年の南下飛来は9月14日に始まり、11月4日まで続きました。標識数は670頭でしたが、およそ1000頭前後飛来したものと思われます。今年は新人の板井幸子さんも参加してくれるので、1000頭～1500頭を期待しています。フジバカマは今のところ順調に育っていますが、心配なことが一つあります。病気と害虫です。京都原種にはツマグロオオヨコバイが大発生しており、バッタの幼虫も葉を齧るのです。園芸種にはアブラムシとダニが寄生してお

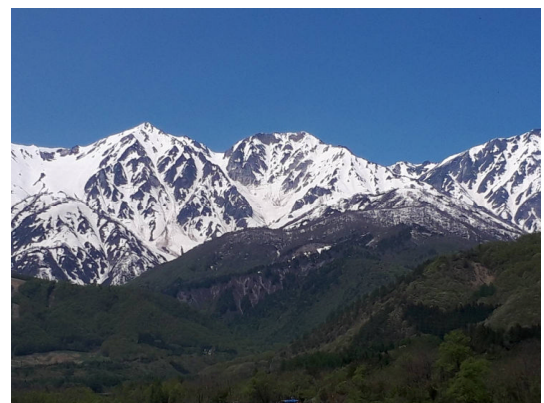
り、芯を止めています。これらの害敵は、フジバカマの権威・藤井先生のご指導により農薬を使って駆除しています。



⑥ アブラムシに芯を止められたコバノフジバカマ



⑦ アブラムシの天敵・テントウムシ類



⑧ ⑨ 北上期のアサギマダラを呼んだ長野県小谷村のボランティアが使うという手袋と、2022.5.7に撮られた白馬三山の写真。